

[平成19年12月13日文教委員会—12月13日-01号]

◆芝田 委員 ご苦労さまでございます。公明党の芝田一でございます。私は全国学力・学習状況調査についてご質問いたします。

今定例会におきましても、大綱質疑で幾つかの議員がこの項目について質問がありましたし、また、午前中も他の委員からも質問がありましたけれども、ご存じのように、文科省の勧めで、43年ぶりにこの全国の学力調査が行われたと聞いておりますが、それとあわせて学習状況調査も行われたということではありますが、なぜこの学力調査が43年ぶりに行われたのか、当局にお聞かせ願いたいと思います。

◎山之口 教務担当課長 今年度実施いたしました全国学力・学習状況調査につきましては、文部科学省が実施主体となりまして、全国的な義務教育の機会均等と水準の向上のため、児童・生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証しまして、その改善を図るために実施されました。以上でございます。

◆芝田 委員 小学生の6年生が国語と算数、そして学習状況調査、そして中学校3年生も、国語と数学ということで4月に行われまして、ご存じのように、結果は厳しい結果で、その学力調査の回答、正解では全国47番中、大阪府は45番目ということではありますが、この辺、先ほども午前中もありましたけれども、この結果について当局の見解をもう一度お伺いしたいと思います。

◎山之口 教務担当課長 結果につきましては、教育委員会としまして大変厳しい状況であるというふうにとめております。先ほども申し上げましたが、特に自分の考えを書く力や学んだことを活用して解く力、これはいわゆるB問題ということで、活用について問う問題を中心に大きな課題があるというふうに認識しております。

また、生活習慣や学習習慣の確立、学ぶ意欲や学習規律についても全国的に見まして課題があると認識しております。以上でございます。

◆芝田 委員 43年ぶりで行われましたけれども、以前からお聞きしますと、平成15年、または18年等では大阪府学力等実態調査も行われてるということですが、ここ最近、学力の低下が問題視されてる中で、全国で行われたのと、以前から大阪府で行われてたこの学力実態調査の関連性をちょっとお聞かせ願いたいと思います。

◎山之口 教務担当課長 大阪府の学力等実態調査につきましては、平成15年、そして平成18年ということで実施をされておりますが、これについては、特に全国の学力調査との関連ということではなくて、大阪府独自で実施をされてきたということで認識しております。以上でございます。

◆芝田 委員 それでは、こういった調査、今言いました過去の大阪府のこの調査も含めて、どのように本市の教育委員会等はこの問題に対応するのかお聞かせ願いたいと思います。

◎山之口 教務担当課長 教育委員会及び各学校におきましては、本調査の結果を十分に活用しまして、これまでのさまざまな教育活動について、あるいは教育委員会としての施策についてこの機に改めて点検し直し、十分な成果を上げられなかった要因を洗い出し、本市教育の再構築をめざして取り組んでまいりたいと考えております。

教育委員会におきましては、検証改善委員会を設置しまして、調査の分析・検証を行います。各学校に対する学校支援プラン等も作成していく予定でございます。

今後、こういった結果を踏まえまして、各学校では学力向上プランを作成しております。それに対する教育委員会としての取り組みも進めてまいりたいと考えております。

また、学校・家庭・地域が協力して、協働の取り組みを進めていけるよう、この点についても推進してまいりたいと考えております。以上でございます。

◆芝田 委員 学力の問題は、学校の教育現場、授業だけの問題ではなく、並行して行われたこういった学習状況調査ですね、家庭の状況等も、就寝時間とか、そしてまたどれだけ勉強をしているとか、また朝の起きる時間とか、読書の問題等も項目に上がっているということでもありますので、先ほど午前のあれでは、共産党の石本委員からも国を超えて4日に、今回、経済協力開発機構・OECDが行った昨年度の国際学習到達度調査・PISAの結果も発表され、ここにおいても考える力とか、応用力が劣っているということで、世界的に見ても日本は以前に比べて下がっているという、国挙げての大きな課題だというふうに私どもも認識しております。

そういった意味で、当教育委員会も、この家庭とか、そういうのはしっかり我々も、私も保護者でありますので、そういったこともしっかり学校からいただけるような、いろんな情報をしっかりキャッチして、していかなければいけませんし、またいろんな、自分なりに自分の家庭の中で子どもに対して、そういった学力を伸ばすような努力もしていかなければいけないと思うんですが、本市としての学力アップに向けての授業改善について伺いたいと思います。

◎山之口 教務担当課長 先ほども少し触れましたが、平成15年、18年に大阪府学力等実態調査がございました。15年の結果を受けまして教育委員会としましては、堺の子どもたちの学力状況の中で、特に自分の考えを書いたり、学んだことを活用して解く力、こういったことが課題であるというふうな認識をしておりました。

平成17年、18年度には、堺市独自の調査としまして、読み解く力に焦点をあてたり、あるいは小・中学校9年間を見通した調査ということで実施をいたしまして、学力向上の手引としてまとめております。また、並行して大阪府教育委員会の取り組み、全国的な取り組み状況なども参考にして取り組んでおります。

今後、さまざま、あらゆる教科におきまして、自分の考えを書くこと、論理的に考えること、こういった教育活動を重視して取り組んでまいりたいと思います。

また、午前中の議論でもありましたが、教科指導研修等にも重点的な実施を進めていくなど、教育委員会は総体として取り組んでまいりたいと考えております。以上でございます。

す。

◆芝田 委員 ありがとうございます。私も3人の子どもがおりまして、小学校4年生、そして中学2年生、中学3年生おるんですけども、小学校4年生の子どもも家に帰ってきて、大阪いうか、レベルが45番目やというか、その45番目だけが何か頭に残って、言うてましたけども、中身は多分、あんまりそんなに理解はしてないと思うんですけども、今回、こういう調査を受けて、児童・生徒にどのような形で調査結果を伝えたのかお聞かせ願いたいと思います。

◎山之口 教務担当課長 子どもたちには、個人個人に個票が返却されております。その際には、教育委員会として、本調査の概要について保護者の皆さんにも文書でお知らせをいたしました。その中には、明らかになった課題や成果についても、ごく概略になりますが、お示しをしております。各学校においても、学校だより等を通じてお知らせをすることとしております。

また、教育委員会として、本調査で測定された学力が特定の一部であることへの配慮、児童・生徒がみずからの得意な領域や不得意な事柄を知って、今後の学習に生かすようにすることが重要であるということを説明した上で、ご家庭においても意欲的に学習に取り組むことができるよう励ましを文書によってお願いをいたしました。以上でございます。

◆芝田 委員 45番目といったら、全国的に低いということで、私も49歳の大人として、いろんな言葉をかけられるわけですけども、マイナスの言葉というのは、それをプラスにする力というのはなかなかしんどい。マイナスのことを何回も言われると本当にへこむいうか、落ち込むわけです。特に若い、こういった小学生、中学生という中で、今のご答弁では、そういうことも配慮されてるということですが、やっぱりその辺は言い方を、大したことないというようなことと、次にまた言い切るような、生徒生徒によって、児童児童によって違いますので、こういう全国的な調査で43年ぶりで初めてのことでありたいと思いますが、しっかりその辺の結果を上手に活用しながら、また当人であります児童・生徒にも、そんな差はないと。こういうふうにすれば伸びる、また勉強の楽しさとか、また学力が上がることはどのように結びついていくのかという、本当に教育の現場でしかできない、また皆様方の現場でのお知恵もしっかり発揮していただきまして、これからは糧にしていきたいなというふうに思っております。

そういう面と、含めて、ただこれはゆゆしき問題だという私は見識も見解もしっかり持っていたかかないと、やはり日本の中での上下比べれば低い方、そしてまた全国的に比べる対象の試験の内容は違いますけれども、日本が韓国とか、また台湾、そしてまた今まで余り教育に力を入れなかった国々に、追い越されて進んでいく中で、しっかり日本の将来を担うのは間違いなく今の子どもさんでありますし、そういった意味では、しっかり我々はそういった意味でも役割は大きいわけでありますので、こういう調査もまたしっかりターニングポイントとして教育委員会も私は力を入れていただきたいなというふうに思っております。

それでは、そういったことも含めて、先進事例の収集についてどのような取り組みをなされているかお聞かせください。

◎山之口 教務担当課長 教育委員会におきましては、政令指定都市移行に伴いまして、文部科学省が主催します各担当分野の会議への参加など、最新の情報に直接触れることができる機会が非常にふえました。また、小中一貫教育でありますとか、学力向上のさまざまな取り組みを先進的に進めている学校への視察等の機会もふえております。

今後も、全国的な先進的な事例の収集に努め、また市内各小・中学校に発信してまいりたいと考えております。以上です。

◆芝田 委員 フィンランドの話が今持ち切りでありますけれども、こういった海外に問い合わせをされたとか、また派遣の予定があるのか。また、以前にもこういうことで、学力とかいろんな先進国に視察に行かれたか、その辺をちょっとお聞かせ願いたいと思います。

◎山之口 教務担当課長 お示しのフィンランド等、学力向上にかかわっての派遣ということはございません。個人で視察に行ったという者はおりますけれども、そういった形での視察はございませんが、今後、海外の大学との連携等についても、英語教育その他についても検討して、推進してまいりたいというふうに思います。以上でございます。

◆芝田 委員 やっぱりスピードとか、また対応のレスポンスというか、そういうのが教育の分野でも私は非常に大事ななというふうに思っております。

過日、カンブリア宮殿という、テレビ大阪で番組があったんですが、楽天の社長が出てきましたけども、あの番組は、今企業で、またそういういろんな分野でトップを走っている、そういう経営者等が来て、いろいろされるトーク番組なんですけども、やはりスピード、スピード、スピードという、その会社の社訓の中に入れてるわけでありまして、またこのフィンランドの記事の中でも、京都市の教育委員会は11月20日にフィンランドの元小学校国語教師を招いて読書習慣と読解力をテーマにした講演会も開いたと。これは多分、以前から仕掛けをして、企画もしてということでありまして、またこの話題が出たときに、かなりの数の問い合わせがフィンランドの大使館にもあったというようなことでありますので、やはりいいものは、すぐ吸収していく、また結びついていくという、そういうことは非常に私は大事だと思いますし、そのための予算はしっかり確保もしていただきたいし、また公明党としてもしっかり支援していかねばならないと、私は思ってるわけでありまして、どうぞよろしくお願いたしたいと思っております。

それでは、最後の質問であります。今回の調査を受けて、本市は、これを機会としてどのようにこういった学力、来年からもまた今終わりなく、続くということでありまして、その辺の決意も込めて当局のお答えをいただきたいと思っております。

◎山之口 教務担当課長 各学校においては、目の前の子どもたちの学習状況を的確に把握し、また課題を教職員で共有をしながら、教育委員会と連携をして進めてまいりたいと思っております。

教育委員会におきましては、それぞれ各学校が抱えている課題に対して適切に支援できるように支援プランを作成し、各学校にも示してまいりたいと考えております。以上でございます。

◆芝田 委員 ありがとうございます。堺市も政令指定都市になりましたので、教育委員会もしっかりこういった調査を踏まえて、大阪府の中の堺市でありますけれども、しっかりやはり大阪府をリードする意味合いも込めて頑張っていたいただきたいと思いますし、また先ほど言いましたように、先進事例、先進国で結果が出ているところには、しっかり派遣もするような形で吸収をしていただきたいと思いますし、またいろんな特区、またモデル等を実施しながら進めていただきたいと思いますし、また一番大事な点かもわかりませんが、教師の環境をしっかり整えることも、もちろん根底になければならない問題でありますので、そういった意味で、教師の質が変わったという堺市の教育の現場になるようにお願いして、この項目の質問は終わらせていただきます。

次に、性教育について質問させていただきます。

まず、基本的なことをお伺いいたします。なぜ、性教育が必要なのか、そういったことを、性教育がめざすものについてお伺いいたしたいと思います。

◎降井 生徒指導担当課長 性教育は、人権尊重、それから男女平等の精神を基盤といたしまして、男女相互の理解を図り、望ましい行動が選択できる能力を育成することをめざしております。

性教育については、性の問題を単に身体的・生理的な側面からとらえるのではなく、人間関係における心理的・社会的側面を含む人間の生き方としての教育として位置づけて取り組んでおるところでございます。以上です。

◆芝田 委員 それでは、学校教育における性教育の現状についてお伺いいたします。

◎降井 生徒指導担当課長 まず、小学校におきましては、保健の授業におきまして、まず中学年では思春期の体の変化、高学年では、エイズやH I Vなどの病原体予防を学習します。中学校では、保健体育科の授業におきまして、性機能の成熟・性とどう向き合うか、また性感染症の予防などの単元で、エイズやH I Vについても学習をいたします。

そのほか、児童・生徒の発達段階や実態を踏まえまして、学級活動や総合的な学習の時間、道徳や各教科などに関連させまして、性に関する指導を行っております。以上でございます。

◆芝田 委員 それでは次に、過激な性教育についての当局の認識についてお聞かせください。

◎降井 生徒指導担当課長 教育委員会としましては、性に関する教育は、先ほども申し上げましたが、人間の生き方としての教育としてとらえております。児童・生徒の発達段階や実態を踏まえ、知識を注入するだけの性教育の指導は適切ではないと考えております。

各学校園におきましては、幼稚園教育要領や学習指導要領にのっとり、教職員の共通理

解を図るとともに、幼児・児童・生徒の発達段階に応じた一貫した性に関する指導を展開することで、生涯を通じてみずからの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力の基礎を培っております。

子どもの心身の発達状態には個人差があります。学校園、家庭が性に関する指導の重要性を認識し、お互いに連携・協力しながら進めていくことが大切であると考えております。以上です。

◆芝田 委員 ありがとうございます。特に、性教育は大事な教育でありますので、当局もそういった見解で進めていただいていると思います。

いじめの問題におきましても、こういった体の一部をやゆして、そういったいじめになったり、そういった意味では、やはり男女相互の理解を図り、望ましい行動が選択できる能力を、この性教育について育成するというご答弁いただきましたので、また過激な性教育についても、やはり東京等で一部あって、大きな問題になりましたので、そういったこともしっかり情報を入れていただきまして、やはり子どもの発達状況をかんがみながら、正確に対応していただきたいと思っておりますし、また先ほど言いました、私の3人の子で、これから思春期を上の子は今迎えてるのかもわかりませんが、そういったときの自分の立場で、性教育に対して、どこまで対応がきちりできるか、それは本当に基だ疑問のともあるわけですけども、学校からいろんな情報もいただければ幸いかなというふうに思っております。

最後に、要望であります。この間、新聞で、大阪の市立中学で、同性間の性的接触でエイズウイルスに、H I Vに感染した男性、34歳の方が、大阪市立中学校3年生の性教育の授業に講師として招かれ、約80人の生徒に自身の体験などを語った。H I V感染者が公立学校の授業で講師を務めるのは極めて異例なことであると。同性愛による感染者となると、文部科学省学校健康教育課も聞いたことがないと言う。生徒自身の反応は前向きな姿に共感したと。他の学生、学校でも話してほしい。また、H I V感染者でも、同性愛者でも人は人だというような感想があったそうであります。

この中学校は、年間数人の生徒が人工妊娠中絶をしていたということでもありますので、そういったことで現場の教員の方が力を入れられて、交渉して、招いたかなというふうに思っております。

ご存じのように、H I V、エイズを含めてひたひたと毎年ふえておりますし、大阪もそうですし、堺もそうであるように、健康福祉局からデータもいただきました。そういった意味で、本当に無秩序な性のはらんするのを、また正確な情報を、性感染症を初め、H I V、またエイズ等の問題も、やはり生徒・児童に教えていただきまして、いい方向に進むようお願いしたいと思っております。

以上をもちまして、私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。